

ご挨拶

公益財団法人 日韓文化交流基金
会長 鮫島章男

当基金は、1983年に設立されて以来、日韓間の相互理解と信頼関係の増進という設立目的の下に、皆様方のご支援・ご協力を賜りながら、日本政府の委託による「日韓学術文化青少年交流事業計画」の下で青少年交流事業を主軸に、日韓間の共同研究・会議等の学術交流をはじめ各種交流事業に地道にとり組んで参りました。



日韓関係はこれまで政治的関係が悪化すると民間レベルの交流も影響を受けるという悪循環を繰り返してきましたが、日韓関係の枠組みが多層的・重層的なものへと転換する中で、政治的問題によって民間交流が影響を受けるといった局面は著しく減少しています。日韓関係は今や国民各層が日常的に往来する大交流時代に入っており、民間交流の動向が日韓関係を下支えするといった状況が生まれつつあるといえます。

異文化間の交流は相互の認識のズレもあり、平坦な道のりではありませんが、相互理解と信頼関係を増進するうえで、文化交流に勝る手段は他に見当たりません。日韓関係は、過去史という負の遺産を引きずっていることから、今後も政治的葛藤から逃れることは難しい環境にあるといえますが、そのような状況の下でも文化交流の領域は、日韓の政治的緊張関係を超越した立場を堅持する必要があると信じており、当基金の存在意義と役割も正にそこにあると自任しております。

顧みますと、当基金は、未来志向的な日韓関係を築くためには、国民レベルの文化交流を増進しなければならないとの日韓・韓日両議員連盟の提

案により、両国経済界の支援を受けて韓日文化交流基金と同時期に誕生しました。

基金創立30周年という節目に際して、日韓関係の将来を見据えた先人の慧眼と勇断に対し改めて敬意と感謝の意を表する次第です。

当基金は、今後も日韓間の相互理解の増進という設立理念を念頭におきつつ、新しい時代の要請に応えるべく更に努力してまいり所存です。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

この度、基金の設立の経緯と事業の変遷について30年史として上梓しましたので、ご高覧に供します。

青少年交流に学ぶ一挨拶にかえて

公益財団法人 日韓文化交流基金
理事長 小野正昭

日韓文化交流基金30年史は、一衣帯水の日韓両国の間に、ゆるぎない信頼関係を築きたいと願う多くの人々の活動の記録であります。日韓国交正常化50周年を明年に控えた年に、30年史が編纂される意義は大きいと思います。なぜなら、この30年史がこれまでの30年に亘る活動を振り返りつつ、今後の30年を展望するための絶好の資料を提供すると考えるからであります。



ここに、長年に亘り、当基金の交流活動にご協力、ご支援下さった韓日文化交流基金の李洪九会長、李相禹理事長、国際教育院の河泰允前院長、李炳鉉現院長をはじめ韓国朝野の方々に深甚の謝意を表します。

また、基金設立当初より今日まで、日韓の学生・教員を積極的に受け入れ、交流に貢献して下さった両国の学校関係者、ホスト・ファミリー、団体関係者、賛助会員の皆様に心より感謝申し上げます。

この30年史は青少年交流を柱とする人的交流及び文化・学術交流の歴史そのものであります。と同時にその背景をなす首脳外交をはじめとする主要な日韓関係の変遷の記録でもあります。30年に及ぶ交流活動は、基金を基本財産とする小規模な運用益と、日韓両国政府の予算措置により実施してきました。厳しい内外情勢に直面しつつも、これまでに約3万人の青少年交流事業、650人以上の中堅・若手研究者派遣・招聘事業、草の根交流などの助成事業を積み上げており、着実に国民レベルの相互理解のすそ野を広げてきました。このことは先人の努力の賜であります。

更に、特筆すべきは、多くの有識者会議を開催し、歴史、文化、経済、

科学、安全保障分野の日韓協力に関する貴重な提言を政府に提出し、国民にも呼び掛けてきたことです。かかる意味でこの30年史は今後目指すべき日韓協力の道しるべ(指針)であり、知恵の結晶であります。日韓を取り巻く国際環境が厳しさを増している今日、日韓21世紀委員会、日韓文化交流会議、日韓新時代共同研究プロジェクト等の提言は、日韓はもとよりアジア・太平洋地域の平和と繁栄にも資するものも多く、今後、提言の中で基金としても可能なものから具体化に向け努力すべきでありましょう。

日韓の青少年交流に携わって、つくづく思うことは、大人は子供から学ぶことが多いということです。子供たちは、澄んだ目で見つめ合い、率直に話し、驚き、感動します。彼らの視点は健全で前向きです。当基金の責務は両国の青少年が予断を持つことなく、歴史や文化を学び合える土壤を作ることであると考えます。ここで、この度の基金30周年作文コンテストに入選した日本と韓国の中学生の作品から2例(抜粋)を紹介し、挨拶にかえたいと思います。

(福島県いわき市立三坂中学校3年)

「日本が嫌いな人が多い韓国に行くなんて怖すぎる。私はそう思っていた。…しかし、そんな疑問や不安は韓国に行ってすぐに払拭された。…何も知らずにただニュースを見て韓国を批判していた自分を恥ずかしく感じた。韓国に対する考え方が変わったきっかけは、友達ができたことが一番大きい。言葉は通じなくても心は繋げられると学び、確かな友情を築くことができた。…日本から見た韓国ではなく、私から見た友達の国としてみるようになった。さらに、友人の国の立場になって日本を見ることもできるようになった。…私は韓国研修で韓国の伝統文化、歴史、国民性を知ったが、日本に負けないくらい魅力的であった。韓国に出会えたことで韓国への見方が180度変わった。…だから、韓国に行く前に、日本に来る前に「怖い」と思ってほしくない。日本人と韓国人の間に領土問題も日韓問題

もなく、あるのは友情と思いやりだけなのだから。」

(釜山善花女子中学校2年、日本語訳)

「…過去に日本が韓国に対して、良くない印象を与えたことは事実だ。しかし、私たちが憎まなくてはならないのは日本人ではなく、過去の日本の民族主義であることを知る必要がある。過去のことだけを思い出し、現在の日本は見る必要はないとして、過去だけに拘ろうとすれば、韓国のこれからの発展はないだろう。…お互いのプライドだけを強調するのではなく、お互いに足りない部分を補い合っていくべきだ。国家間で起こる争いごとは、韓日両国だけでなく、東アジア全体の未来までも危うくする。…韓日が文化交流を通じ協力できれば、両国のイメージはさらに高まり、世界に大きく貢献できると信じている。」

祝辞

財団法人 韓日文化交流基金
理事長 李相禹

公益財団法人日韓文化交流基金が創立30周年を迎えたことに心よりお祝い申し上げます。

国と国との友好関係は、両国民間の相互信頼が積み重なってこそ永く持続されるものであります。国民同士が信頼し合わなければ、二国間の関係は一時的には良くなることはあっても、永く続くことはありません。それ故、両国の国民がお互いを理解し、信じあえる心と心をつなぐ民間外交の重要性が増すのであります。



日韓文化交流基金は、30年という短い期間に、われわれが驚くほど大きな成果をおさめてきました。学术交流と芸術交流の行事にも多く携わってこられました。知識人交流や青少年交流等の人と人との交流にも素晴らしい業績を残しています。これまで3万人に近い人々に対して、日韓両国を往来して心を開いて相手の考えを理解する機会を提供している点において、貴基金は他のいかなる団体よりも韓日関係の友好増進に寄与したところが大きいと信じております。心より敬意を表する次第です。

韓国人と日本人は多くの面で類似した生活様式を持っていますが、物事を認識する方法や価値観など多くの文化的な違いがあります。しかし、この違いを知らずに、相手が自分と同様であると思い込むがゆえに、感情的な葛藤を引き起こすことがあるわけです。貴基金が、これからも両国の国民間で、双方の相違点を理解し合うことにも努力して下さることをお願い申し上げます。

貴基金と同じ目的のもと、同じ時期に創立された私共の韓日文化交流基

金は、これまでの間、貴基金のご協力のもとで、合同学術会議を開催するなど有意義な事業を行うことができました。心より感謝申し上げますと共に、貴基金の益々のご発展をお祈り申し上げ、祝辞といたします。

日韓文化交流基金創立30周年への祝辞

国立国際教育院
前院長 河泰允

日韓文化交流基金創立30周年を心よりお祝い申し上げます。このような祝辞を述べる機会をいただき誠に嬉しく思います。

これまで日韓文化交流基金と国立国際教育院は、日韓両国の友好の架け橋としての役割を果たしてきました。1989年から両国間の学術文化及び青少年交流共同事業の下で、多様な交流プログラムによりこれまで12,000人余りの日韓両国の人々がお互いの国を訪れました。とりわけ、日韓文化交流基金はこれまで30年にわたり、国際的な感覚で両国間の文化の違いを理解し、韓国に対して温かい視点で心の距離を縮めようと多様な事業を実施し、両国の友好促進に寄与してきました。今日、日韓間の交流が1日で1万人以上の人々がお互いの国を訪問するという目を見張るばかりの成長を見せたことには、日韓文化交流基金の役割がとても大きかったと思います。

日韓両国間の人々の交流は拡大傾向にあり、年間500万人以上の人々が両国を往来しています。日本には韓流ブームが定着し、韓国においても日本の文化コンテンツが高い評価を受けるなど、民間レベルの交流が更に活発化しています。このような両国間の交流増加とともに、両国間の相互理解の増進のため政治、経済、社会、文化等、各分野の交流を更に発展させる必要があると思います。

特に、昨今のように日韓関係が難しい時期であればあるほど、青少年と教育者等の相互交流を拡大することによって、両国が更に理解を深め近い存在になれると思います。



国立国際教育院は、これまで日韓文化交流基金との共同事業をお互いに理解と信頼を持ちながら運営してきたことを大変嬉しく思っており、今後も引き続き協力しながら運営していきたいと思っております。

最後に、日韓文化交流基金の更なる発展を祈念しつつ、創立30周年のお祝いとさせていただきます。

NIIED

第7139号

感謝牌

公益財団法人 日韓文化交流基金

貴基金は、韓日教育交流の主催機関として、両国間の交流の活性化及び友好協力関係の増進等、本院の事業全般にわたり多大の協力を行い、国際交流増進に大きく寄与して下さいました。ここに、貴基金の功労と関係者の皆様のご苦勞に感謝申し上げ、本牌を贈呈いたします。

2013年12月20日

国立国際教育院院長 李炳鉉

